

湘南国 滑藝新聞

Kokkeishinbun

2015 6/16
vol. 3

文科省不認可
湘南国立大学校機関紙
TEL 080-9083-3095
MAIL info@shonankoku.jp
フェイスブック
facebook.com/shonankoku
ブログ shonankoku.jp



© Makino Isao

開校のこぼ

あなたがすることはほとんど無意味であるが、それでもしなくてはならない。そうしたことをするのは、世界を変えるためではなく、世界によって自分を変えられないようにするためである。ある人物はそう述べました。またその人は、生は死から生じる。妻が芽吹くためには、種子が死なねばならない。とも述べたのです。これらのごとば、つまりこれらのことばの根本にある考え、それらをわたしたちは本学開校の「こぼ」にしたいと存じます。

『報道ステーション』で重大問題を提起した

元経産官僚 古賀茂明さん 講演会

6月19日(金) 19時開演 / カトリック藤沢教会で



▲古賀茂明さん

官僚志望者の大半は、国民のために持てる能力を発揮したいと望み、官僚を目指す。ところが、この純粋無垢な気持ち、いつの間にか汚濁にまみれていく。そういう構造的な欠陥を現在の官僚機構が宿している——と、古賀さんは自らに記した。2011年5月のことで、そのときの肩書きは「経済産業省大臣官房付」、まだ現役の官僚であった。その後、古賀さんは公務員改革の後退を批判したり、東京電力の破綻処理等を提案したりするが、時の権力の気にはい

第15代酒井田柿右衛門さん 講演会

6月27日(土) / 藤沢SHOW HALLで

第14代柿右衛門さんがこの世をさらされたのは2年前の6月15日でした。若くして柿右衛門窯を継ぐことになった15代は、いったい何を考えておられるのでしょうか。



▲第15代酒井田柿右衛門さん

柿右衛門家は1600年代のはじめからはじまる焼ものの家ですが、その伝統を継承しつづけるには多くの困難がありました。それまで日本に存在しなかった磁器、それに色を付けるという技術の伝承が柿右衛門家の重要な使命になったのです。ヨーロッパの王侯・貴族が競って柿右衛門様式の収集をはじめました。それは「日本の美」を収集することでもありました。いったい「日本の美」とは何か？ それを考える手がかりが柿右衛門様式でもあるので



▲瀬手団栗文花瓶

即興ライブ・ペインティング / 7月18日(土) 大磯妙輪寺

牧野伊三夫さん 来たる!

わが湘南国立大学校の校章を描いて下さった画家・牧野伊三夫さんの即興ライブ・ペインティングを開催します。



▲牧野伊三夫さん

アトリエの内だけの画家でない牧野さんは、社会で行動する画家です。悩んだときに散歩にでたら、太陽の光が眩しくてそれを飲み込んだという「太陽を飲む」画家なんです。太陽を飲んだら、体中に元気が満ちてきて、こんな僕でも生きていていいんだと思えたそうです。もちろん、この世に生きていていけない人なんているはずありませんから、

映画『カンタ! テイモール』を観た!

女優・斉藤とも子と一緒に



▲斉藤とも子さん

5月30日に藤沢SHOW HALLで開かれた、キュメンタリー映画『カンタ! テイモール』上映会は、女優の斉藤とも子さんの案内で大好評でした。撮影時には23歳だった製作者の広田奈津子さんも、いまでは一児の母。感動は今後も国境を越えて広がるでしょう。今日の日本の姿がここに投影されているのですから。

校長 妄言..... 2

ビートたけしが、「テレビで本質的なことを言ったら干される」という趣旨のことを喋ったらしい。その通りだと思ふ。本当のコトは話しちゃいけないのである。テレビも世間もその点では同じだ。本当のコトなんて言ったら相手にされなくなる。しかし、相手になんか書かなくても本当のコトを書こうと思ふ。馬鹿には馬鹿と言ったほうが親切だろう。ここまで読んでもう頭に血がのぼってしまった人もいるかしらん? まだ、何が馬鹿だと言っちゃいけないの.....。自分たちが住んでいるこの町が好きだという人たちがいる。病膏盲、この町大好き運動をやりだしたり.....。私に「この町」が好きな理由が分からない。「この町」のどこがどのような理由で好きなのか? 空気がいいとか緑が多いとかいう町なら全国に何百何千もある。具体的で論理的で説得力のある「好き」の説明を聞きたいのだ。首長殿の子弟や縁者は「この町」にお住まいか? 隗よりはじめよ! これは原発や安保法制のことも同じ。深く深く、自分の脳味噌で。(わ)

サククス奏者・田野城寿男さん 講義採録

音の不思議、音楽の謎

サククス奏者・田野城寿男さんによる4回シリーズの講義

「音楽の再発見 和声や調性の謎について」モーツァルト、ストラヴィンスキーそしてマイルスデイビスまで」が4月19日(日)から藤沢SHOW HALLではじまりました。

「人はなぜ音楽を聴いて喜怒哀楽するのだろうか」と題した第一回の講義の様相を採録します。

「ポーン」と鳴った後に音は消え去ってしまう

笠本 このホール(SHOW HALL)の管理人でもありません朝日新聞販売有限会社代表取締役の笠本と申します。このホールでは毎月いろんなイベントをやっております。このたびは湘南国立大学という学校を知りまして、その大学の講義をこちらでもやろうということで、今回はじめてこの場所ですることになりました。

そこで、田野城寿男さんの音楽講座をまず4回シリーズでやります。他にもいろんな講座を企画しておりますので、ぜひまたこちらに足をお運びいただければと思います。それでは、湘南国立大学校長である和田さんをご紹介します。

和田 校長の和田と申します。……いま、25秒ばかり黙ってみました。もっと長い時間これをやるともつと奇妙な気持ちになります。不安になってくる。

ジョン・ケージという人がこんな風にして「4分33秒」という演奏をやりました。演奏もいってピアノの前に4分33秒座ったきりだいて、4分33秒なにもしないで帰っちゃった。それをどうという風に考える

彼は、先生が「大丈夫だ。あなたにはできないから習いに来てたら別に教えることはない」と言ったそうです。これは日本の音楽教育と真反対ですよ。発想の原点が違っている。できないからこそ教わるというのが教育ですよ。

この話を田野城さんから聞いて、私はすごく感動しました。これはとても大事な考えじゃないかって。そんなことを考えつつ、田野城さんに音の世界のことを私たち素人に分かるようにお話をお願いしたいと思います。では、田野城さん。

人間というのはなんのために生きているのかな

田野城 それでははじめたいと思います。よろしくお願います。田野城と申します。1958年あたり生まれです。いま57歳になってしまったんですけど、でも、さきほどご紹介していた通り、ぼくは20歳から音楽をはじめまして、それまでは音楽業界の人間ではございませんでした。いまより30kgぐらい痩せていて、どちらかといえばスポーツ専門で、サッカー、バレー、野球という音楽フィールドとは関係ないところに生きていました。

その体育会系の人間がたまにたま大学受験というものに直面しまして、当時高校生だった18歳の男が、なんかスムーズにいく大学受験合格の方法はないだろうかと、高校の推薦状もいただきながら、一生懸命がんばって見事に落ちていたいただきました(笑)。

分探しの旅をしようかなと思っただけです。自分探しの旅って、世界を旅行して回って、世界中を渡り歩いていろいろなものを見られたらいいなと思っただけです。というの、ぼくは広島生まれで、幼いころは原爆ドームが遊び場だった。原爆ドームで遊んでみますと、世界各国からいろんな方たちがやってきて、ぼくとは違う人もいるんだという現実を直面する、そういうことを肌で感じるわけです。それで違うものをもっと見てみたいと思うようになりました。原爆は広島の人間にはすごく強烈なインパクトがあるんです。たくさんの方々の生々しい原爆体験のお話を聞いてみると、じゃあ、人間というのはいったいなんのために生きているのか、どうやって生きていくのか、学校に行く理由ってなん

んだっていうと、「勉強していい大学に入っていいところに就職しなさい」と先生は言うでしょ。ぼくは、それで識字力と記憶力がまずよければいいんだらうかと考えたわけ(笑)。

いいところに就職しろといわれても、なにをもっといいところというんだらう? 八百屋さんがダメで、銀行マンだったらいいんだらうかとか、魚屋さんはいいけど布団屋さんはダメとかね。

ぼくはよく分からなかったんですが、その価値観というのは、おそらく貨幣ではないのかなというところは、どう分かったんです。要するに、どれだけお金を弾き出すかみたいなことではないかと。1円よりも100万円弾き出している人がすばらしくて、10円や50円弾き出している人はいかなものか、ということにつながってくる。

パッと話は飛ぶんですけど、でも、いまの私の生活はまったく10円や20円の世界にはまり込んでいます。これはまた楽しいかぎりということ。縛られることなく自由奔放に生きていく、それはぼくにとってはすごく嬉しいことだと思っただけです。ぼくの簡単な生い立ちが分かっていただけましたか? 分かるはずないですよ(笑)。

アメリカに留学させていただきました。そしてアメリカで教育というものに接しました。音楽をやったことのない人間がいったいどのようにして音楽というものを学んでいくのか、どのようにして刷り込まれてしまうのかということ



▲田野城寿男さん

をもって体験しました。面白いんですけど、ひよつとしてこの考え方は間違っているかもしれないというのに気づいたのもアメリカでした。こうでなきゃいけないと教え込まれたのも、これからは押しつけられた考え方を、同時に信仰してみないと、自分でそれを選択しなければいけないというところに迫られていくんですよ。

この人たちの音楽はいつたいなんだろう

田野城 ぼくは講座のタイトルにモーツァルトやストラヴィンスキーという言葉を使いたくありません。音楽大学のクラシック科の卒業生ではありません。いわゆるジャズを専門とした大学でした。クラシックの勉強はするんですけど、これがジャズであるとか、これがクラシッ

クであるとか、そういうふうな一方的に押しつけられた考え方と、これも音楽、あれも音楽、要するにカテゴライズしないものの考え方というものに出くわしていくんですね。すべては自分探したと思っただけで、そこをツールにしてなにかしら分かればいいんじゃないだろうかと考えるように

なりました。それから当然現地にはアメリカの方やカナダの方、ドイツやノルウェーの方もいらっしやいました。そうした人たちと二つの物事を進めていくとか、一緒に勉強していく。そこから学校の方針というものも感じることができたので、そういうことをお話ししながら、「調性」の世界についてみなさんと一緒に考えてみたいと思います。

最初に音楽と接したのは幼稚園ぐらいですかね、みんなでお祝いごとの歌を歌ったりしました。いちばん強烈だったのは小学生のころの『上を向いて歩こう』でした。アメリカでは『スキヤキ・ソング』とされているんですけども。

そういうものを聞きながら、ませガキだった私はラジオで洋楽というものに興味を持ちました。やっぱりビートルズ。ビートルズとはいったい何者なんだろう、この人たちが考えている音楽はいったいなんだろうというふうな……。

そこから多くの音楽人生がはじまっていくんですけども、みなさんはどうですか？
 まだにあのときのこれが忘れられないっていうの、ごいまますかね？

男性A むかしは季節感があった。夏になるとけっこうハワイアンが流れていたんですよ。
田野城 それは面白いですね、ハワイアン、はいはい。

男性A それで季節感がバシッと伝わってくるというかね。でも、いまは特定の場所に行かないかぎりハワイアンはなかなか聴けない。
田野城 ハワイアンセンターですか？

男性A (笑)そんな感じ。

田野城 そうですよ。クラシックを専門に勉強していたという方はいらっしやいますか？
女性A クラシックっていうか、音大の楽理学科で音楽理論を勉強しました。そこでさきほ

要は飽きちゃったから転調するんです

田野城 分かりました。では演歌とかロックとか、歌謡曲、ジャズが好きという方、せっかくですから聞かせてください。

いまハワイアン、ジョン・ケージ、それから三味線が出てきました。三味線はいわゆる和楽器に近いですよ。他になにかありませんか？

男性B 美空ひばり。
田野城 美空ひばりはどうし

どのジョン・ケージとかマルセル・デュシャンを知って、いろんな新しい出会いがありました。ジョン・ケージの『4分33秒』はそれこそ衝撃的でした。あと、三味線も。

て聴かれたんですか、かわいかった？
男性B 日本人の心ですね。あの、ほくどしたいエンジンがかかってくる時間帯があるんです。ほくどは50歳からまた現役に戻すために末端のジャズクラブに行つて演奏するということを繰り返しているんです。そうすると夜の8時ぐらいに



演奏のピークが始まって、終わると11時ぐらいになるんですね。そこから軽く食事をして、打ち上げして、みんな話し合うと2時か3時、ことによると5時とか6時になるので昼間は頭がいつもボケた感じなんです。夜の1時、2時、3時あたりというのはNHKで「ラジオ深夜便」というすばらしい番組をやっています。ほくどが唯一NHKでも聴ける番組なんですけれども、ここでは本当にいろんなジャンルの音楽をかけています。

美空ひばりさんが17歳前後にレコーディングされたジャズのスタンダード曲なども流れてくるんですけども、正直言つて独学で勉強された感じはしませんでした。なぜかという、歌を歌うのではなくてフレーズを歌うんです。スキャットと言つてすけれど、も、フレーズをだすのはジャズ独特の、黒人がだす独特の音階があるんです。この音階はそこに住んでいないとでない音階なんです。相当いろんなことを勉強された方だなという感じはしました。

それから最近ほくどが驚いたのは細川たかしさん。あの方のセルフカバー曲を聴いたら力を込めて熱唱するところはおそらく半音ズレています。なぜズレているのにレコーディングされたのか、細川たかしさんは半音ズレても全然OKなんです。他にも半音ぐらいズレてOKという方をみなさんよくご存知ですよ。あのユーミン。あの方の曲は妙にフワフワフワフワしたような感じで、ドシツと安定していないですね。あのフワフワ感ついていたいな

んなんでしょ。ハワイアンもそうなんですけれども。スチールギターで「ふゆゆ〜〜ん」っていいませんか？ なんか「タラララふゆゆんゆんゆんゆん〜〜ん」とかいい感じでグラグラ揺れるんです。その揺れるのがポイントなんです。

ちよつと最初に戻りまして、曲つていうのは一般的にはなにかの調でできているんですよ。ハ長調とかハ短調とか、要するに長調と短調。厳密に言えば、最近の音楽は長調と短調に近い形でできており、どちらかの組み合わせなんです。その組み合わせのバズルみたいな形なんです。で、飽きちゃうので違つたところに転調する。

これはいいかげんな言い方ですよ。おそらく音楽理論の先生からはすぐ追放されると思います。でも、要は飽きちゃう

耳から聴いたものをエネルギーに変えちゃった

田野城 さきほど校長がおっしゃったように、音楽というのは音がポツとでてその瞬間に消えますよね。フツと消えていく。触ることもできなければ、食べることもできない。でも面白いことが一つありまして、多くの音楽家は音楽を演奏した瞬間に色が見えるんですよ。紫だったり、黄色だったり。

ほくどがいちばんシヨックだったことをちよつと話しますね。音楽つてすごく楽しく感じたり、悲しく感じたりする。でも、お腹が空いても食べられないんですよ。ほくどが学生るとき、お金がないというすごく切実な問題があつて、やっぱり腹減るんですよ。最初の寮生活で、誰が仕組んだか知りませんが、白人と黒人とほくどという見事なコントラストの部屋

だから転調するんですよ。面白くないからつぎのところにいくという魂胆だとも思います。

じゃあ、ベートーベンの交響曲第五番『運命』ハ短調。なんでハ短調なんですか。ハニホヘトイのどこでもいいじゃないですか、イ短調じゃダメなんですか。チャイコフスキーのピアノ協奏曲第一番変ロ短調。これ、ハ短調じゃダメなんですかね。

要するに調が違うつていうことなんですけど、調が違うつていうことは、ふつう音楽の場合には#やbが6個6個並んでいるんですよ。なにもないのを中心線にして、bが1個つくとb圏、fなんですけどね。ハニホヘ、ハ長調。#が1個つくとハニホヘ、ト長調ですよ。こういうふうな順番に#圏があるときには単純に移行する。

に詰め込まれました。これで1年間生活するとなにが起こるかというのはいいたいご想像通り大きな問題が連発していきいんです。

ほくど、お腹が空いてしまったんですよ。夜に。黒人のルームメイトも腹が減つたというから、3、4ドルで安いピザを食おうということになって2人でかけたんですよ。学校の向かいにはレコードショップやビザ屋がある。で、ほくどはピザ屋に向かつていったんです。そうしたら、黒人の彼が、ちよつとレコードを見てくると言った。ほくどはピザ屋で待つていた。ほくどはピザを食べ終わつても彼

はこないから、しょうがなく自分の寮の部屋に戻つたんです。しばらくすると、彼がレコードを買つて帰つてきた。彼はな

けなしの金をはたいてレコードを買つてきたんですよ。たぶん2ドルか3ドルの安いやつ。で、腹減つたつて言いながらレコードをかけたんですよ。そして、聞き終るころには「ああ、お腹いっぱいになった。もうなにもいらんない」つて。

人間というのはおそろしく口から入れたものしかエネルギーに変えられないはずなのに、彼は耳から聴いたものをエネルギーに変えちゃつた。そういう30年前の思い出がほくどにはあるんですよ。これはかなり鮮明に残っている。例えばこの講義が終つてお腹空いて家に帰つて、美空ひばりでお腹いっぱいになったらすこいですよ(笑)。こういう経験ございませんでしょか？

あの、すみません、ほくどは外見が恐ろしく見えるので割と気をつけてしゃべっている小心者なんです。黙つていると本当に怖い格闘技系の人に見えちゃうんですよ。格闘技はやっておりませんので少し打ち解けていただいたほうが。心と心がつながるといいうのも音楽です。

男性C 時間を忘れてしまつていうことが音楽ではあるんじゃないかと思つています。聴いている間はその世界に入り込んじやつて、お腹が空いているのを忘れるつていうことがあると思つていますね。
田野城 ああ、そうですね。

男性C 音楽に浸れると幸せな気分にもなれますし、演奏者の世界に入れてもらつて、その時間を楽しめるという。
田野城 なるほど。ちなみに好きな音楽はどのよう？

男性C 田野城さんと歳が近い
 ▼詳細は4面へ

